

# 「企業×農福連携」シンポジウム ～一緒に農福連携始めませんか～ の開催について



令和8年2月

一般社団法人 日本農福連携協会



# プログラム

## 【第1部】

- ① 企業に対するアンケート調査結果の概要説明
- ② 企業による農福連携の取組紹介及びトークセッション
  - ・ 帝人ソレイユ株式会社 / 帝人ソレイユ株式会社×帝人株式会社
  - ・ パーソルダイバーズ株式会社 / パーソルダイバーズ株式会社×横須賀市
  - ・ 中電ウイング株式会社 / 中電ウイング株式会社×株式会社ココトモファーム
- ③ 相談会

## 【第2部】

- ・ 農福連携に取り組む企業による1分プレゼン
- ・ 3企業への個別相談
- ・ 農福連携商品の試食・試飲

# 第1部 企業による農福連携の取組紹介・トークセッション

## 講演① 帝人ソレイユ株式会社



- 帝人株式会社の特例子会社
- 自社の我孫子農場で胡蝶蘭や野菜、エディブルローズを生産・販売
- 親会社の人事部門トップが特例子会社トップを兼務し、グループ一体となって農福連携に取り組む



HP

取締役社長補佐 鈴木 崇之 氏

## トークセッション① 帝人ソレイユ株式会社×帝人株式会社



テーマ

「企業型農福連携を通じた企業価値の向上」

帝人ソレイユ株式会社  
取締役社長補佐  
鈴木 崇之 氏

×

帝人株式会社  
人事部長  
古川 寛 氏

# 第1部 企業による農福連携の取組紹介・トークセッション

## 講演② パーソルダイバーズ株式会社



- パーソルホールディングス株式会社の特例子会社
- 神奈川県横須賀市・三浦市の農家との間で農作業受託(援農事業)を実施
- 横須賀市と「農業と福祉との連携推進に関する包括連携協定」を締結し地域と連携した農福連携に取り組む



HP

よこすか・みうら岬工房グループ  
マネージャー 岩崎 諭史 氏

## トークセッション② パーソルダイバーズ株式会社×横須賀市



テーマ

「地域に根差した企業型農福連携がめざすもの」

パーソルダイバーズ株式会社  
よこすか・みうら岬工房グループ  
マネージャー 岩崎 諭史 氏

×

横須賀市民生局  
福祉こども部長  
藤崎 啓造 氏

# 第1部 企業による農福連携の取組紹介・トークセッション

## 講演③ 中電ウイング株式会社



- 中部電力株式会社の特例子会社
- 自社農園(中電ウイングファーム)でイチゴ事業を実施
- 地域の企業間で連携し、付加価値の高いコラボ商品を開発



HP

いちごファーム スタッフ課長  
近藤 貴博 氏

## トークセッション③ 中電ウイング株式会社×株式会社ココトモファーム



テーマ

「地域の企業と連携したコラボ商品の開発」

中電ウイング株式会社  
いちごファーム スタッフ課長  
近藤 貴博 氏

×

株式会社ココトモファーム  
代表取締役  
齋藤 秀一 氏

# 第1部 相談会

## 帝人ソレイユ株式会社 取締役社長補佐 鈴木 崇之 氏

(相談事項)

- ① 設備投資に要する資金や、農業に従事する人材育成での困りごと
  - ② 帝人ソレイユでの農福連携の取組が、帝人グループ全体の社員の意識向上につながった具体的なエピソードや、そのための工夫等
- 

## パーソルダイバース株式会社 マネージャー 岩崎 諭史 氏

(相談事項)

- ① 障害のある社員の方に指導をする人材の育成方法
  - ② 様々な援農先農家がある中で、障害のある社員ごとの適性に応じた作業の割り当て方法
- 

## 中電ウイング株式会社 スタッフ課長 近藤 貴博 氏

(相談事項)

- ① 農業技術の習得方法
- ② 農業事業で収益を上げていくために力を入れていること



## 第2部 交流会

# 農福連携に取り組む企業による1分プレゼン



カゴメ株式会社  
中津隈 哲郎 氏



片倉コープアグリ株式会社  
大沼 正人 氏



株式会社ゼネラルパートナーズ  
寺田 花奈子 氏



株式会社富士美園  
藤野 和泉 氏

## 第2部 交流会

### 3企業への個別相談

帝人ソレイユ株式会社  
取締役 社長補佐 鈴木 崇之 氏

パーソルダイバース株式会社  
マネージャー 岩崎 諭史 氏

中電ウイング株式会社  
スタッフ課長 近藤 貴博 氏



### 農福連携産品の試食・試飲

株式会社ココトモファーム  
(中電ウイング株式会社とのコラボ商品)  
「贅沢バウム ウイングいちご」

株式会社富士美園  
「狭山茶」

一般社団法人エンジェルガーデン南国  
南国にしかわ農園  
「有機土佐國グアバ茶」



# 第2部 交流会

## 農福連携の取組紹介を掲示した企業



カゴメ株式会社  
余市トマトジュース@水尻農園産

アスタネ

生産物:菌床しいたけ

パーソルダイバーズ株式会社

生産物:さつまいも、みかん等

株式会社Act.

農作業:さつまいも等 選別

中電ウイング株式会社

生産物:いちご

株式会社いかす

生産物:有機野菜、加工食品

株式会社富士美園

生産物:狭山茶

帝人ソレイユ株式会社

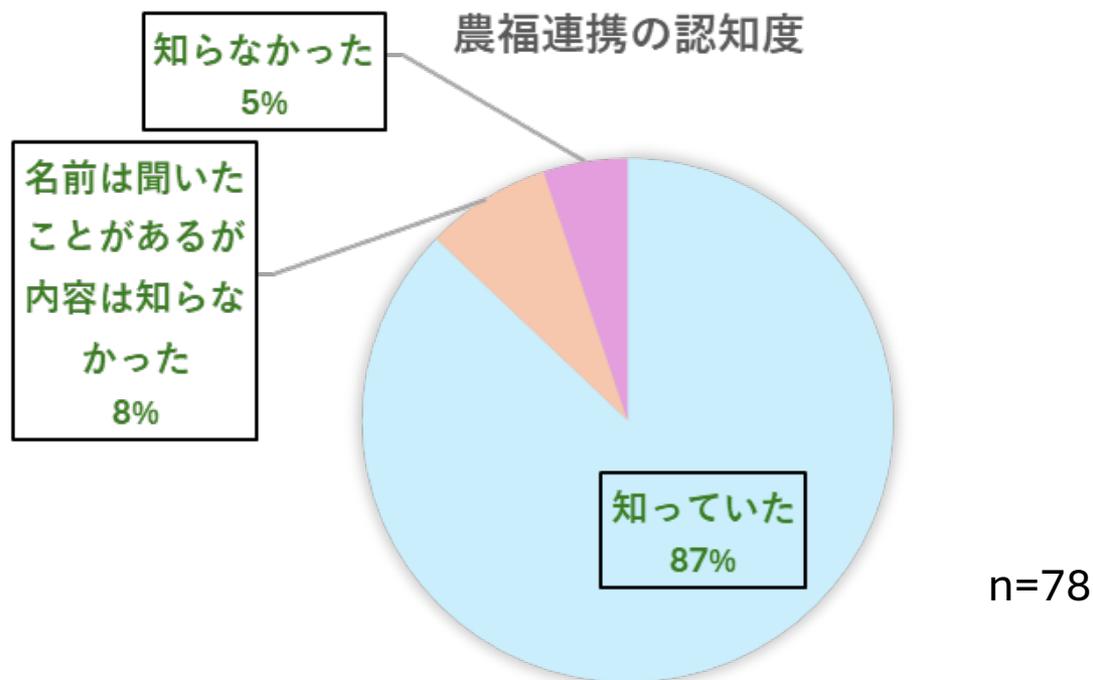
生産物:胡蝶蘭、野菜、バラ

片倉コープアグリ株式会社

生産物:野菜17品目、ブドウ

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (1/9)

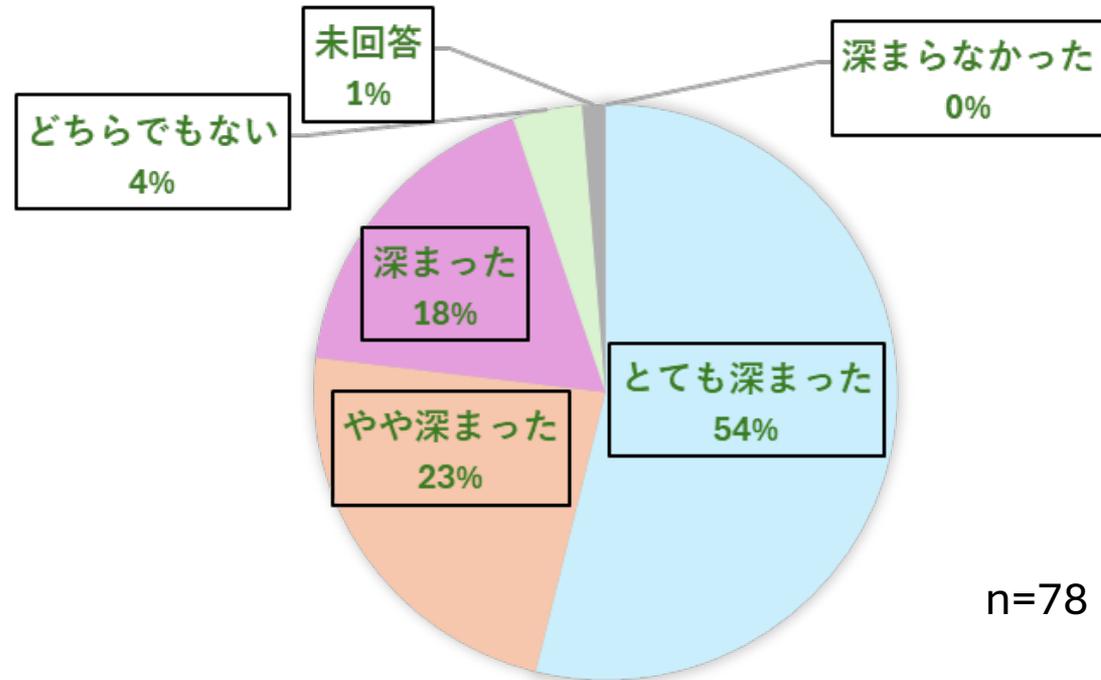
## ●農福連携の認知度



- 9割近くの参加者が既に農福連携について知っているとのことから、ほとんどの参加者が、より農福連携を深く知ることや、横のつながりづくりを求めて本シンポジウムに参加されたのではないかと想像できる。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (2/9)

## ●シンポジウムを契機とした農福連携への理解度



- シンポジウムに参加して、農福連携への理解が「深まった」との回答が9割を超えた。(うち、「とても深まった」が5割強。)

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (3/9)

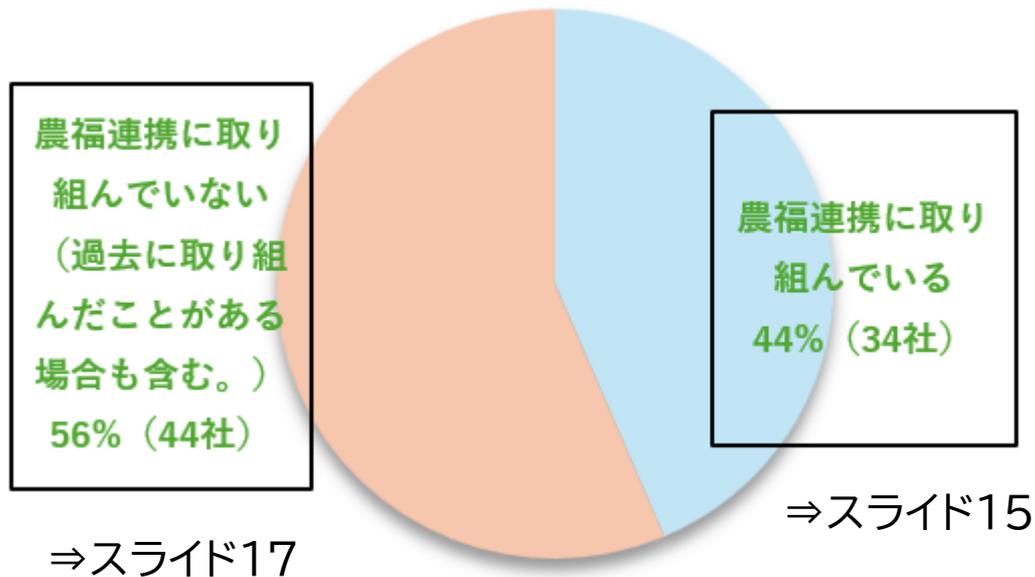
## ●それぞれを選択した理由(記述式) n=78

- とても深まった
  - ・ 特例子会社の農福連携のお話を直接お聞きするのは初めてだった。3パターンの取組方を分かりやすくご説明いただき、理解が深まった。よく議題に上がる「本事業と異なる農業に参入する」という点で、そのストーリーやお考えを知ることができたのは大きな収穫だった。
  - ・ なかなか企業内部のお話は公開してもらえないことが多い中で、運営の実情を教えてもらえたため、臨場感高くお話を伺うことができた。
- やや深まった
  - ・ オペレーション等、具体的な話をお聞きすることができたため。
  - ・ 企業側の雇用率達成目的からの農福連携推進への変遷(仕組み)が理解できた。
- 深まった
  - ・ 企業の事例を聞いたことが大変参考になった。行政や農業委員会と連携することで進めることができるとういと感じた。また、ドローン等の最新技術を取り入れているところも新しい視点として非常に参考になった。
  - ・ 援農型農福連携等、具体的事例を知ることができたこと。

➤ とても深まった理由としては、「本事業と異なる農業に参入する」ストーリーや考えを知ることができたこと、企業内部の話は公開してもらえないことが多い中で、運営の実情を教えてもらえたことといった回答があった。先進的に取り組む企業が自らの取組を話すことで、参加者の農福連携への理解が一層深まったものと思われる。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (4/9)

## ●農福連携の取組の有無



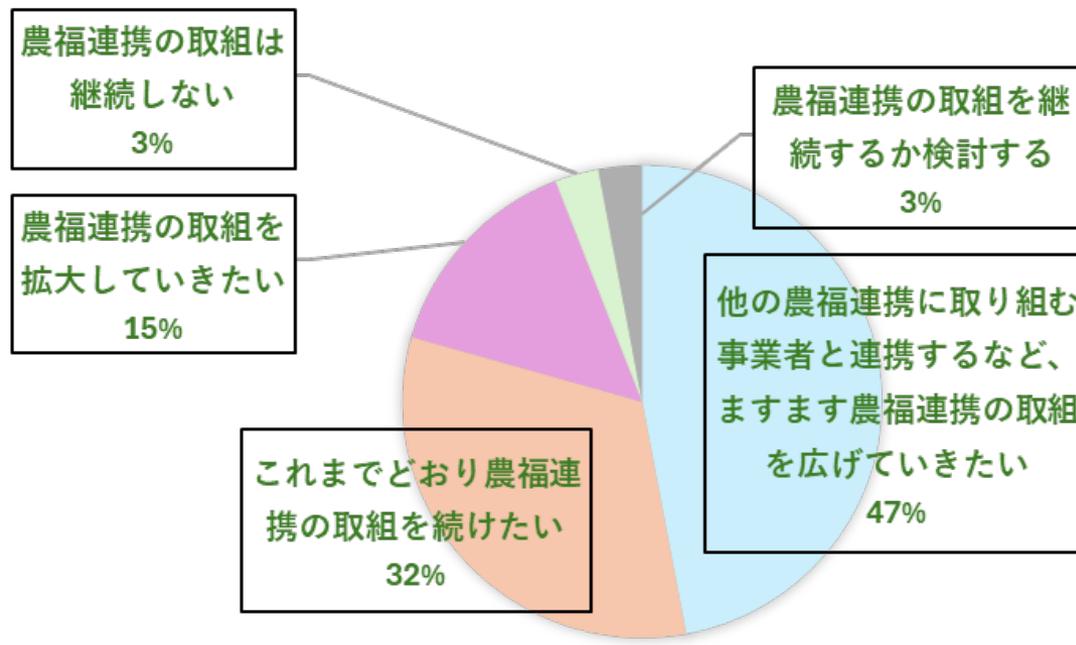
n=78

- 農福連携に取り組んでいるところもそうでないところも、おおむねバランスよく参加いただいたことが分かった。農福連携を認知している者が9割程度であったことを踏まえると、これから農福連携に取り組みたいと考え、参加した層も一定程度いたことが想像される。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (5/9)

## ◎農福連携に取り組んでいると回答した者(n=34)

### ●シンポジウムへの参加をきっかけに、農福連携について感じたこと



- 現に農福連携に取り組む者の今後の意向として、「他の農福連携に取り組む事業者と連携するなど、**ますます農福連携の取組を広げていきたい**」との回答が約半数を占め、次いで「これまでどおり農福連携の取組を続けたい」、「農福連携の取組を拡大していきたい」との回答があった。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (6/9)

## ●それぞれを選択した理由(記述式) ※回答を分類分けし、上位3項目の回答の一部を記載 n=34

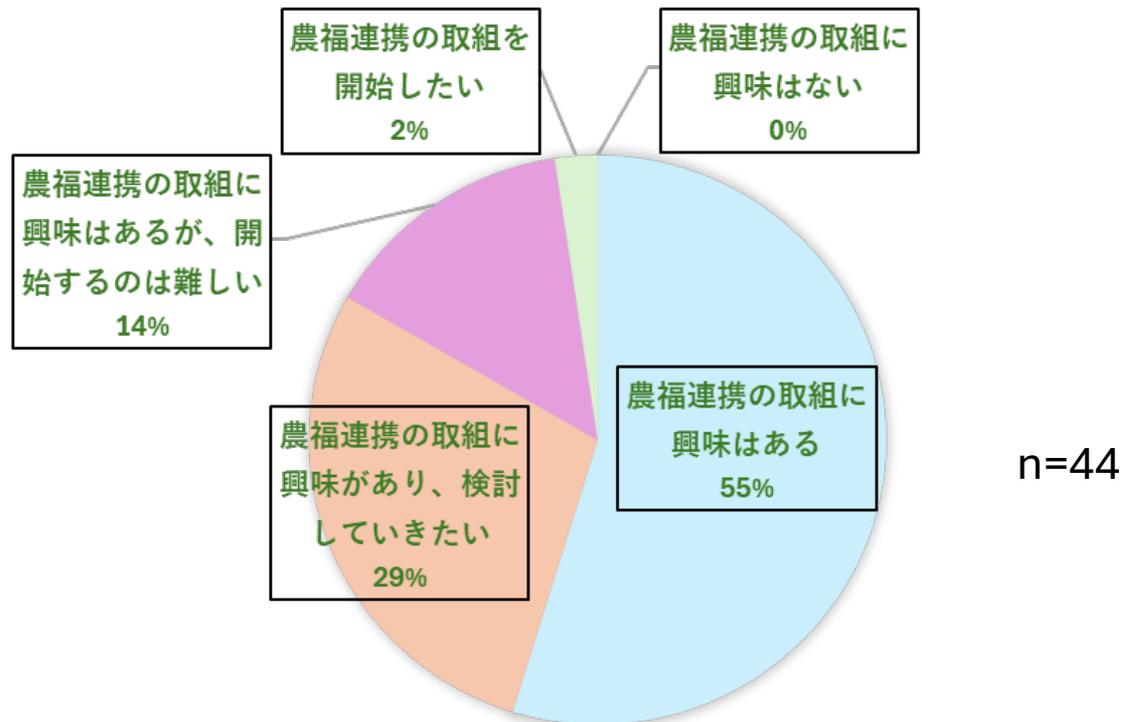
- 他の農福連携に取り組む事業者と連携するなど、ますます農福連携の取組を広げていきたい
  - ・ 農福連携はすでに開始しているが、行政との連携や農福×IT(AI)等も将来的には結び付けていくと、障害者の雇用が更に創出できるのではと感じた。
  - ・ 農福連携は、単に労働力の提供(福祉→農業)、生きがいの提供(農業→福祉)だけでなく、周囲へのプラスの波及効果が非常に大きいものであることを実感した。
  
- これまでどおり農福連携の取組を続けたい
  - ・ 取り組んだ結果が出ているので。
  - ・ 農福連携に意義を感じているから。
  
- 農福連携の取組を拡大していきたい
  - ・ まず他社の経験やノウハウを学習して、自社の展開に活かしていきたい。
  - ・ 農福連携は、会社のイメージアップと社員の心理安全性の確保にもつながるため。

➤ 行政との連携や農福×IT(AI)等も将来的には結び付けていくと、障害者の雇用が更に創出できると感じた、農福連携は周囲へのプラスの波及効果が非常に大きいことを実感したなどの回答があり、農福連携の価値や可能性の大きさを感じた参加者もいたことが考えられる。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (7/9)

◎農福連携に取り組んでいない(過去に取り組んだことがある場合を含む。)と回答した者 (n=44)

●シンポジウムへの参加をきっかけに、農福連携について感じたこと



➤ 現在農福連携の取組を行っていない者においては、過半が「農福連携の取組に興味はある」と回答しており、「農福連携の取組に興味があり、検討していきたい」と回答した者と「農福連携の取組を開始したい」と回答した者を合わせると、9割近くが肯定的。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (8/9)

●それぞれを選択した理由(記述式) ※回答を分類分けし、上位3項目の回答の一部を記載 n=44

- 農福連携の取組に興味はある
  - ・ フィールドが違うので、どのようにかかわればいいのか模索中である。関心のある面々はいるので、どんな形でもいいので実践したい。
  - ・ 今回のシンポジウムを聞き、前向きな気持ちは高まった一方、人、金、時間等がかなり必要なことが明確になり、ハードルもかなり高くなった印象である。
- 農福連携の取組に興味があり、検討していきたい
  - ・ 既の実証実験は完了し、雇用検討の段階に入っているから。
  - ・ 基本的に農地等必要なものの取得に手間がかかるので、検討はしたいが、どうしても時間がかかる。
- 農福連携の取組に興味はあるが、開始するのは難しい
  - ・ 一般企業の農業への参入にハードルがある。かつ、会社への理解を得ることの過程にハードルがある。
  - ・ 業法上の壁、採算上の壁、初期投資額の壁等。

➤ **どんな形でもいいので(農福連携を)実践したい、今回のシンポジウムを聞き前向きな気持ちは高まった**といった回答があった。一方で、**興味はあるが、会社の理解や初期投資等に課題があり、一般企業が農業へ参入するのは難しい**との声も複数あった。

# シンポジウム実施後アンケート結果の概要 (9/9)

## ●意見、感想等(記述式)

※回答を分類分けし、回答の一部を記載

n=78

### ○ 今回のシンポジウムに関すること

- ・ 非常に参考になったし、オンライン参加できたのも良かった。また次回も参加したい。
- ・ 大変さとともに、その面白さ・成果を広めていくことの大切さを感じた。

### ○ 今後の企業部会の活動に関すること

- ・ 取組をされている企業様への見学ツアーの実施をお願いしたい。
- ・ 農福連携を実践して行くに当たり、経費や収益等、開始するに至る面を分かりやすく見えるようにしてもらえるとありがたい。取組まれている事例もありがたいが、ゼロイチの部分が見えるともっと取り組むところが増えると思う。

### ○ その他

- ・ 行政・自治体や関連団体からの支援(ヒト・モノ・カネ、ノウハウ等)について、制度の有無や相談相手、アドバイス等を頂けたら、農福連携進出のハードルが下がるため、ありがたい。
- ・ まず、一般企業への理解度を深める活動が弱いと思う。また、企業参入に関して費用面での援助や補助、協力体制が十分とられていることが必要かと考えられる。
- ・ 農福連携に取り組む企業が地域貢献に関心が高いことが分かった。

➤ 今後の企業部会の活動については、**取組を行っている企業への見学ツアーの実施の要望や農福連携を開始するに至る面を分かりやすく見えるようにしてほしい**との回答があった。また、行政等からの支援において、**制度の有無や相談相手等を教えてもらえれば、農福連携進出のハードルが下がる**との声も挙がった。